

## ぶれっそ 40号 福々刻々

厚生労働白書では「すべての人々が地域に暮らし、生きがいをともに創り高め合う地域共生社会」が謳われました（28年版）。社会福祉法人は福祉サービスの中核的な担い手としてこれまで以上に地域社会との関係を深く持ちながら、必要とされる公益的な活動を地域の方々とともに作り上げていくという時代になったと認識しています。

法人が事業を開始して 25 年。私どもは公益的な取り組みを一層進めることを法人の経営基本原則にあらわし、これまで取り組んできました。今後さらに努力し、つながりの輪を広げ、福祉的なまちづくりの一翼を担いたいと思います。

さて、ここで留意したいことは個々の職員問題意識や行動です。職員は皆それぞれ個性があり経験も様々です。もちろん仕事は共通に踏まえねばならないことが基盤になりますが、ご利用者への支援、また地域の方々との関係づくり、そして関係機関との連携などは経験の含蓄がうまく生かされてきていると思います。総じて法人の職員は価値の多様性を受け止め、人と人の良好なつながりをつくることができると私は感じています。これは法人経営において心強いことです。

経産省では「職場や地域社会で多様な人と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として 2006 年から「社会人基礎力」を提唱しています。ここに示されていることはすぐできることばかりではなく、仕事の中で時間をかけて身につけていくものもありますが、それはベテラン職員にとっても必要な内容ということでもあります。仕事では誰しも小さな挫折や失敗を経験しますが、人は仕事で磨かれると言います。職員には「前に踏み出す力」を意識し、成長して欲しいと願っています。

（平成 30 年 5 月）